

週報

2007年 6月 24日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

《今日の聖書から》今日の聖書箇所、“失われた羊一頭”を求める神様の愛の箇所はとて有名で、そのシーンはテレビコマーシャルにも使われるほどです。すなわち、クリスチャンでなくても、もともと神様によって造られた人間が、与えられている“思い”だということです。それではこの喩えをどんな場面でイエス様は語られたのでしょうか。“するとパリサイ人や律法学者たちがつぶやいて、「この人は罪人たちを迎えて一緒に食事をしている」と言った(15:2)”とあります。イエス様の話しを聞こうとして彼らは集まったのですが、そこに罪人がいるのを見て、そのことが許せなかったのです。収税人のような職業についている人、“汚れている”とされた、障害を持っていたり、病に犯されている人々、これらはみんなパリサイ人にとっては“罪人”で、同席することも避ける存在でした。しかしイエス様の視点は、これら救われなければならない人々に注がれていたのです。“罪人”とされていた人達も、“自分は汚れている”と思っていたというわけです。現在でも、身の回りを見て、その悲惨なところに、心が奪われ、自分は救われないと、思ってしまう人はいないのでしょうか。反対に、自分は惨めだと思ってしまう人はいないのでしょうか。信仰を拒否する人々の生き方が、ここでは“失われた一頭の羊”に喩えられた姿なのです。イエス様の喩えは更に続きます、“一緒に喜んでください”ということです(15:6)。だれでも、よくよく心の中を探ると、人の悲しむ姿は、やはり悲しいのです。同じように、喜ぶ姿は、“うらやましい”という思いより、はるかに、やはり喜ばしい事なのです。この喜びが実は、天の喜びなのです、とイエス様は、真理を知らせられるのです。いまも“忘れていませんか”と語りかける声が聞こえるのです。イエス様の痛烈な指摘は、次のたとえ話につづきます。こんどは、部屋の中でコインがなくなった喩えです。教会の中で失われている魂、せつかく悔い改め、主を信ずる群れに加えられながら、失われていこうとする魂があったならば、神様が、それを見つけるまで、すなわち再び信仰生活が回復されるまで、呼び求められるのです。そしてここでもまた、“一緒に喜んでほしい。これが天国に置ける喜びなのだ”と、イエス様は教えられるのです。どうしてこんなに、失われる事に心を留め、聖書は“一緒に喜んでほしい”というのでしょうか。それは天にある喜びであり、あなたがたも分かる事だということです。